

第2回 基礎自治体による行政サービス提供に関する研究会 議事要旨

【開催日時等】

- 開催日時：平成25年9月10日（火）15：00～17：00
- 場 所：中央合同庁舎4号館1階 共用123会議室
- 出席者：辻座長、大杉座長代理、伊藤委員、片山委員、鎌田委員、勢一委員、立石委員、玉沖委員、沼尾委員、山本委員
事務局：門山自治行政局長、山崎大臣官房審議官、時澤行政課長、原市町村課長 ほか

【議事次第】

- (1) 開会
- (2) 浜松市の取組について
 - ・発表（鈴木 康友 浜松市長）
 - ・意見交換
- (3) 福岡市の取組について
 - ・発表（高島 宗一郎 福岡市長）
 - ・意見交換
- (4) 閉会

【資料説明】

- 浜松市長及び福岡市長より、配布資料に基づき説明。

【意見交換（概要）】

（浜松市関係）

- 浜松市は、東三河や南信州との県境を越えた結びつきが強い。特に東三河とは経済圏として一体的であり、浜松市と豊橋市との間の行き来が多い。
- 市町村間の個別の関係では、取組に齟齬を生じることもあるが、圏域全体としてはメリットがあるということを各市町村が感じているので、連携が進んでいるのではないか。
- 浜松市を中心とする圏域内の過疎対策については、産業振興、特に林業の活性化、観光、交流人口の拡大に力を入れており、例えば市域内の過疎地域へのアクセスの良さを生かした移住・交流施策等に取り組みたいと考えている。市域内や三遠南信地域の移住・交流施策には、NPOも積極的に取り組んでいる。

- 浜松市においては、防災や産業など、連携しやすい分野から他市町村との連携を始めている。
- これから公共施設が一斉に更新時期を迎えることを考えると、市域を越えた公共施設の適正配置が重要な課題。特に小規模な市町村があらゆる種類の公共施設を維持するのはリスクが高いため、まずは市町村間での施設の相互利用から検討するのがよいのではないか。
- 浜松市の医療については、医師会と病院の連携、病診連携がうまくいっている。もう少し地域性を認めてもらい、例えば県境を越えた医療圏を設定してもらえると、より実態に合わせた取組ができるようになる。
- 土地利用のあり方に関し、浜松市においては、地盤の良さ等により企業の集積が続いていることから、農地制度上の規制緩和や新たな工場用地の開発等が行われている。

(福岡市関係)

- 福岡市は MICE による成長を考えているが、MICE の開催都市として有名なシンガポール等の他の都市と比べ、コンベンションのハードが圧倒的に不足している。コンベンションのハード整備に充てられる国の補助がないため、自主財源で整備しなければならない。
- 一方、他の都市からは、福岡市の背後に福岡都市圏、更には九州が広がっていることが、マーケットとしての福岡市の魅力だと言われる。福岡市は、福岡都市圏や九州全体におけるハブ機能を果たしたいと考えている。
- 福岡市が広域的な役割を果たす上での財源や、近隣の市町村にとっての連携のインセンティブを国に用意してもらえると、近隣の市町村に声をかけやすい。
- 「フルセットから共有へ」がこれからの行政のあり方のポイントである。例えば、観光については、各市町村がばらばらに取り組むのではなく、空港やホテル、コンベンションセンター等の MICE の資源を有する福岡市と、九州大学、太宰府天満宮、宗像大社といった資源がある近隣の市町村とが連携し、互いの資源を活用しあうことで、ビジネスの集客を地域全体に行き渡らせ、Win-Win の関係を作れるようにしたい。
- 福岡市の近隣の市町村は福岡地域戦略推進協議会 (FDC) に入っていなかったが、最近になり具体の事業が見えてきたことで、鳥栖市など他の自治体に関心を示すなど、様相が変わってきている。

- FDC の中に「MICE ビューロー」を置き、ワンストップサービスによる MICE に関する情報の一元化と、ビジネスマッチングとしての MICE の実現を可能にしたい。
- MICE の取組により福岡市がどのように発展するかを、具体的にビジュアルで示し、市民と将来像を共有することで、施策への理解を得ている。
- 福岡市の持つ中枢性が、産業政策を福岡市が中心となって進めることのメリットである。交通アクセスのよい福岡市にヒト・モノを集め、福岡市のサービス産業とつないで付加価値を高めて外に出すことが、最速のビジネスモデルであり、九州全体にとってメリットのある話だと思う。

以上